



TSU NA GU

地域連携情報誌

vol.35
2022年3月

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます



地域とつなぐ 架け橋として

理事(兼)院長補佐(兼)
患者支援センター
センター長(兼)
脳神経外科 科部長

うる い せい し ろう
潤井誠司郎

さまざまな医療機関の皆様方には日頃から大変お世話になり、また多大なご協力賜り、心から感謝申し上げます。

当院の患者支援センターは、入退院支援室、在宅医療支援室、地域連携室で構成され、病院と患者さんおよび医療機関の皆様との間の様々な架け橋となって、よりスムーズに高度・救急医療、地域医療が行えるよう支援することを使命として日々努力しております。コロナ禍もすでに丸2年数か月が経過し、現在はこれまでで最大の第6波に見舞われ、まさに我々人類は大海の荒波にもまれる小舟のごときでございます。しかし当センターは皆様方のご支援と、これまでの蓄積してきた経験と知恵で、何とか安全な航海を続けられております。

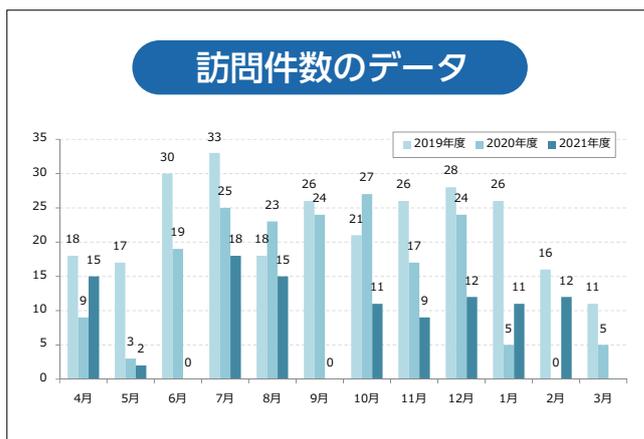
新型コロナウイルス感染拡大の第1波におきましては、一時的に紹介患者さんの受け入れを制限し、地域の医療機関の皆様には、多大なご迷惑をおかけいたしました。その後はそのようなことなくご紹介をお受け入れできているかと存じます。入院支援では早期から入院患者さん全員に入院前コロナ感染リスクの確認を行い、院内クラスター発生防御の一役を担い、また退院支援では新型コロナウイルスに感染した患者さんの退院に関しても支援してまいりました。また、コロナ禍前には当院の現況の情報発信や紹介患者さんについての意見交換を行うために、当院主催の地域連携会議や様々な研究会など、対面で行うことができていた情報交換会が開催困難となる中、WEB上での情報共有を主たる手段として進めさせていただいております。2年前に地域連携会議のWEB配信から始めさせていただき、現在は、すでに消化器外科症例・心不全症例などの分野でon-line交流も始まっており、今後さらに広めていきたいと考えております。より多くの医療関係者の皆様にご参加いただけましたら幸いです。

コロナ禍にあっても日常診療の継続は死守すること。これが地域医療を支える当院の使命と心得ております。まだまだまったく先の見えないコロナ禍でございますが、どうか今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

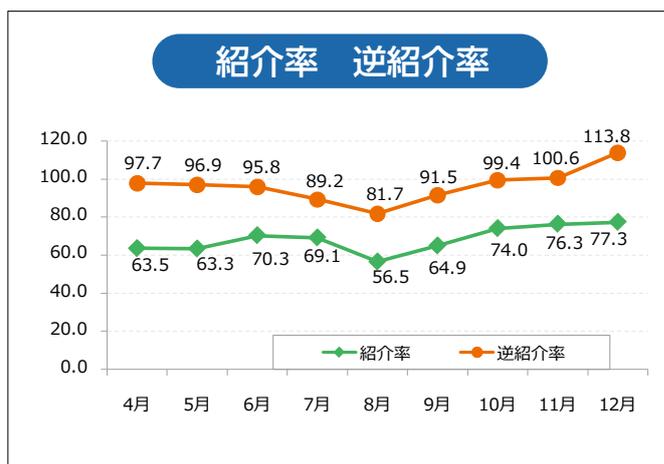
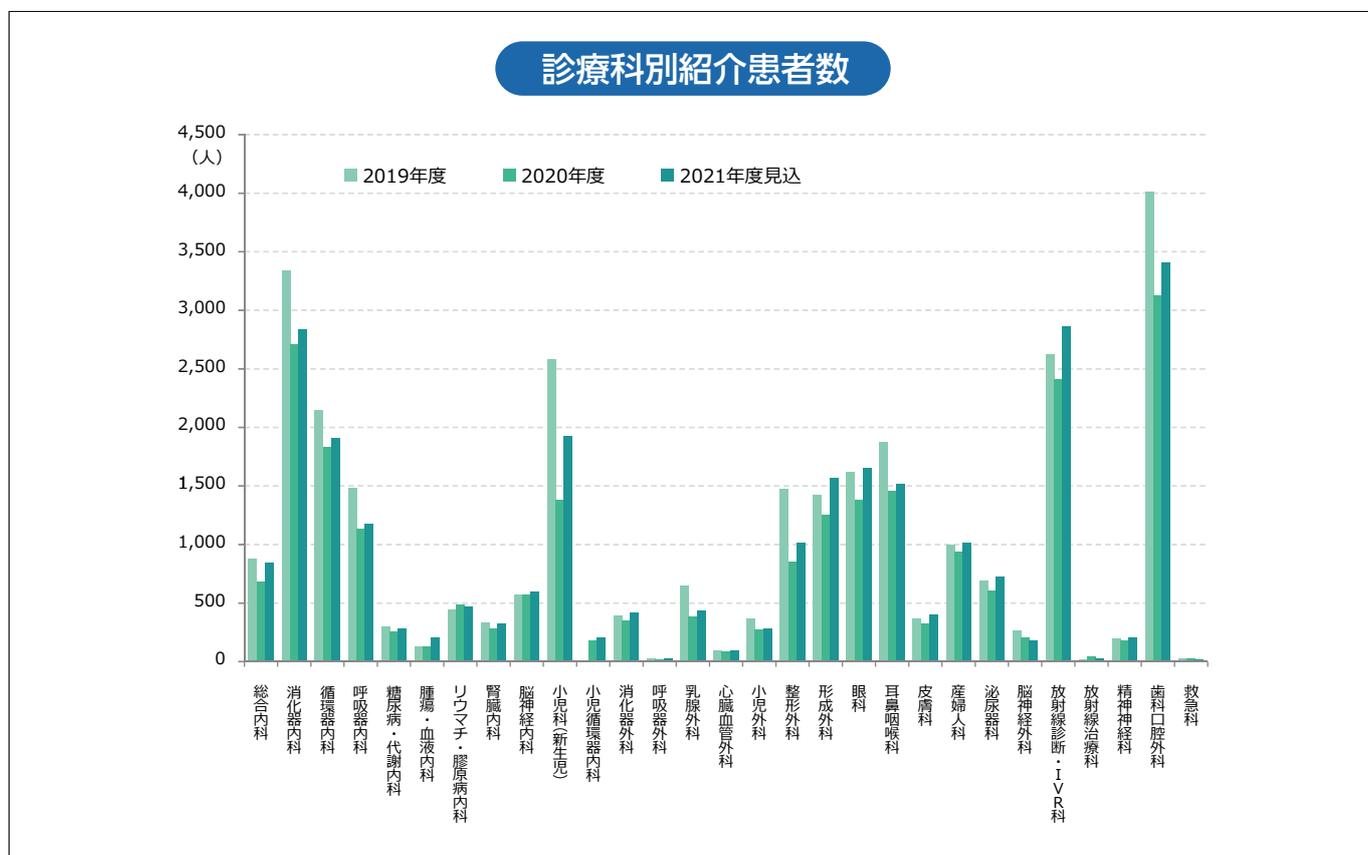
病院データ

患者支援センターでは、地域の医療・介護関係者の方々と顔の見える関係を築いていくために、地域の連携医療機関、施設への訪問を継続的に行っています。地域医療機関と様々な情報交換を行い、患者さんの受け入れ、退院支援・退院調整の効率化、連携体制の整備に努めています。

地域の先生方の診察から基幹病院の急性期診療の流れの中で、地域住民の健康を維持するために連携が不可欠であります。切れ目のない医療を提供するために、双方にメリットのある運用を構築していきます。



※緊急事態宣言発出の為、自粛期間あり



(加古川市消防本部、高砂市消防本部、明石市消防局)



患者支援センター

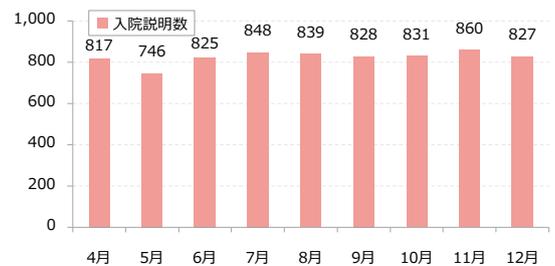
～適切な医療・介護へつなぐ～

入退院支援室

予定入院の患者さんの情報の把握、不安な事や疑問などを聞き取り、入院前から必要な支援へ繋げることは基より、入院前から退院後の生活を見据えた注意点や準備について一緒に考え、必要な場合は、他の専門職種とともに、入院から退院後に向けた支援を行っています。2021年度から業務の効率化、患者満足度・医療の質の向上をめざし、さらにPFM体制を推進しています。2022年度4月には入院支援室を移転し、患者さんへの対応窓口を増やし、スムーズな対応につなげたいと考えています。



入院支援件数



新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大により、“当たり前”とされていた入院中の面会が制限され、入院患者さんやご家族が、今後の療養先を考える上で大変苦慮されています。私たちソーシャルワーカーは、変わりゆく社会情勢に敏感にアンテナを張り、患者さんやご家族と一緒に安心・安全な生活を共に考え、臨機応変な支援を行っています。

今までと違った形の支援を日々模索しながら、患者さんやご家族の想いを一番に考え、関係機関の皆さまと同じ思いの中で連携させていただいています。今後ともご指導の程、よろしく申し上げます。



退院支援件数

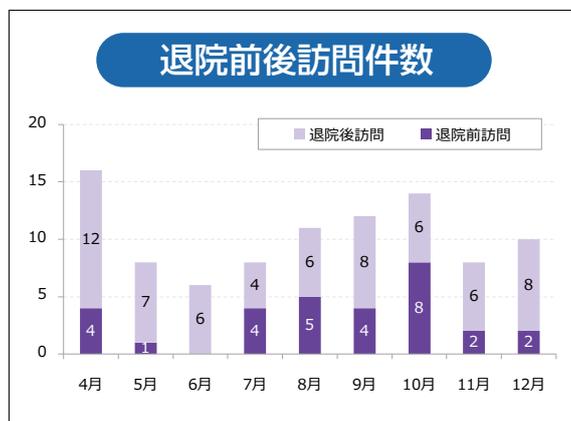


在宅医療支援室

当院通院中の患者さんの在宅調整、治療が終了し、病状が安定した患者さんに、医療が途切れることのないようかかりつけ医の紹介、制度説明、就労支援、両立支援を行っています。依頼を受けた内容に留まらず、患者さんとの面談や家族の方との会話の中で、患者さんを取り巻く在宅環境・ケア、また何か支援が必要なことや困っていることがないか確認するよう、心掛けています。コロナ禍においても感染対策を徹底して、退院前・退院後訪問を実施し、患者宅で訪問看護師やケアマネジャーと情報共有や、引き継ぎを行うことで患者さんは安心して在宅医療へ移行できると思います。今後ともよろしくお願ひします。



共有や、引き継ぎを行うことで患者さんは安心して在宅医療へ移行できると思います。今後ともよろしくお願ひします。



かかりつけ医を推奨しています。

外来受診の患者さんへ

かかりつけ医を持ちましょう

当院では、国の政策に基づき「かかりつけ医」と「加古川中央市民病院」が役割分担を明確にし、協力し合って、質の高い医療を提供できるように努めています。そこで病状の安定しておられる患者さんにつきましては、「かかりつけ医」へご紹介させていただいております。ご理解ご協力をお願いいたします。

かかりつけ医 専門的治療の紹介 加古川中央市民病院

- ① 日頃の身体の状況を把握して病気を早期発見
- ② 専門的治療が必要な病状に際しては中央市民病院へ紹介
- ③ 加古川中央市民病院への受診予約が可能

かかりつけ医 日常の健康管理

④ 身体の状態を詳しく調べ、重症・専門医療でサポート

まだ「かかりつけ医」をお持ちでない方は「1階：患者相談窓口」にお越しください。担当者をご相談に応じますのでお気軽にご相談ください。

加古川中央市民病院 病院長



当院では、患者さんによる医療機関の適切な選択を支援することを目的として、医療機能情報提供システムを運用しています。医療機関の診療科目や診療日、診療時間、対応可能な疾患・治療内容などが素早く検索できます。患者さんにかかりつけ医をもつていただくために、在宅医療支援室のスタッフが患者さんの病態、お住まいなど通院に関する情報をヒアリングしながら、サポートします。

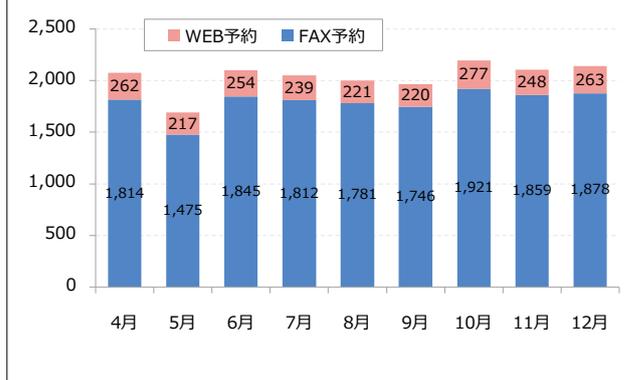
地域連携室

地域連携室は、地域医療機関からの紹介患者さんに関する診察・検査等予約の受付窓口として、室長・副室長・看護師・事務の15名体制で、コロナ禍でも紹介患者さんが安心して当院を受診頂けるよう支援を行っています。

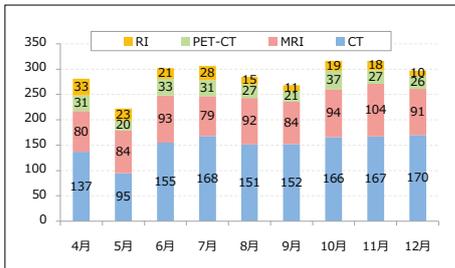
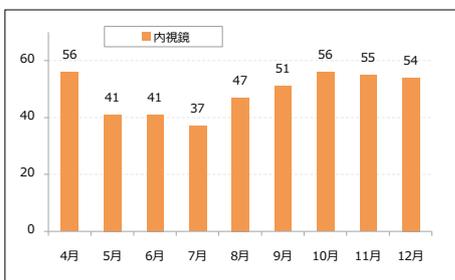
また、他医療機関への訪問や医療機関向け広報誌の発行、紹介元医療機関への受療報告等の進捗管理といった様々な業務を行っており、地域医療機関の皆様にご協力頂きながら、地域医療の強化に努めています。



FAX WEB件数



紹介件数 (画像検査)



新年度、入院支援窓口が移転します。

新型コロナウイルスの感染拡大により、来院する患者さんの三密を回避するため、2020年8月からは、きらりホールの一部へ入院支援窓口を移し、そこで入院前問診を実施しておりました。近々では、オミクロン株の発生により、更なる感染防止対策が必要となり、この度入院支援室、入院支援窓口の移転を行います。2022年1月より、書類受付(旧)の改修工事にはいり、3月末完成を目指しております。それまでの期間、待合ロビーの縮小により、患者さんには大変ご迷惑をおかけしておりますが、何卒ご理解、ご協力の程宜しく申し上げます。



加古川中央市民病院 オンライン症例報告会



今年度、消化器外科において、地域の先生方にご参加いただき、Zoomにて症例報告会を実施いたしました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、地域の先生方との交流も激減し、顔の見える関係も希薄になってしまう可能性があります。

そこで、ご紹介いただいた患者さんの症例をピックアップし、当院での治療状況を個別に報告する機会を設けました。

紹介状、返書といった文章のやりとりでは充足できなかった内容にも触れ、撮影画像や術中動画などを閲覧しながら、主治医から説明を行うことで、より当院の状況も理解していただけたと思います。

来年度以降は、さらに多くの先生方にご参加いただけるよう、ブラッシュアップしていきますので、ぜひご参加ください。



地域連携会議の延期

毎年5月に開催しておりました地域連携会議について、今年度も弊院としても開催に向けて慎重に検討を重ねた結果、開催の延期を決定いたしました。つきましては、国内の新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、あらためて開催時期を再度検討し、ご連絡させていただきます。

マイナンバーカードの保険証利用の促進



2021年10月20日よりマイナンバーカードを利用したオンライン資格確認の運用を開始していました。さらに2022年3月7日より、マイナンバーカードの新たな利用方法として、特定健診情報・薬剤情報を閲覧することが可能となりました。当院でも、患者さんへ当該運用のメリットをご理解いただくために、院内掲示にて推奨しております。

2022年3月7日
から開始！

**マイナンバーカードの健康保険証利用
特定健診情報・薬剤情報**について

マイナンバーカードを健康保険証として利用する場合、「顔認証付カードリーダー」で本人が同意をすれば、医師があなたの**特定健診情報・薬剤情報**を閲覧することが可能になりました。
※ 同意に基づいて、医療機関からオンライン資格確認実施機関に特定健診情報や薬剤情報等を
送付し、医療機関へ提供されます。

どないことがあるの？
初めての医療機関でも、今までに使った正確な薬の情報や自身の過去の健康状況が医師と共有できることで、より多くの情報に基づいた、診療を受けることが可能となります。

特定健診情報って？
40歳から74歳までの方を対象に、メタボリックシンドロームに着目して行われる健診結果の情報です。
※ 75歳以上の方の健診情報は、後期高齢者健診情報です。

医師が閲覧可能な情報項目

- 受診者情報
- 特定健診結果情報*
- 質問票情報(脂質・喫煙歴等)**
- メタボリックシンドローム基準の該当判定*
- 特定保健指導の対象基準の該当判定**

メタボ健診とも呼ばれているよ。

薬剤情報って？
医療機関を受診し、薬局等で受け取ったお薬の情報**です。
※注射・点滴等も含まれます。

医師が閲覧可能な情報項目

- 受診者情報
- 過去のお薬情報**
(調剤年月日、医薬品名、成分名、用法、用量など)

※ 2021年9月以降に診療したもから過去3年分の情報が参照可能
※ 同意を得られてもお薬手帳は診療時には必ずご持参ください。

地域連携室からのご挨拶

2021年度も本号をもって最終となります。地域の医療機関・介護関連施設の皆様とのより深いつながりを持つべく、発行させていただいております。次年度以降も、引き続きより良い「地域連携情報誌」を目指してまいりますので、ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

文責：地域連携室 副室長 白井 裕基

